



ライオンズ国際協会 336-A 地区 2R 3Z

伊予土居ライオンズクラブ

2008年2月号 会報誌

『全員で盛り上げよう感動のある奉仕』

2007～2008年度
■スローガン■

『土居町遠望と赤星山(1,453m)と豊受山(1,247m)』
2月19日撮影





会長

広がる小学生と一緒に『地球の秘密』教室

長尾 嘉也

環境問題を目的にした清掃奉仕活動「ラブリバー」の展開事業として、平成16年度より小富士小学校5年生のクラスで坪内愛華ちゃん(当時小学6年生)が地球の環境問題を描いたまんが、『地球の秘密』を教本にして始めた地球環境授業に当ライオンズクラブ員が参加して一緒に学ぶ活動が4年目に成りました。平成18年からは関川小学校も参加し、今年2校約60名とライオンズ参加者25名、1～2時間ずつの授業ですが年々小5年生とは思えないほど地球環境問題を身近に感じ取り、オゾン層の破壊、森林伐採、海や河川の汚染、酸性雨・・・等、よく勉強していることに驚きました、大人は難しく、大きく考えすぎてなかなか実行しないが、子供達は日常生活の中からスーパーのビニール袋の再利用、こまめに消灯や節水をする、近くは車に乗らない、ゴミを捨てない、・・・など子供達に教えられ反省ばかりの授業でした、現在の2校に続き長津小学校と北小学校が今年の反省会に出席して導入の参考にされる様です。

当初より子供と校外で環境奉仕活動をしたいと願っていた事が3月12日に小富士小学校全校生約190名とラブリバーの協力を得て実施出来るように成りました、清掃奉仕活動の目的は、ゴミを拾った人は次からは捨てなくなる、また捨てようとする友達や家族に「ゴミを捨てたらダメだよ！」と注意をする、その場所が綺麗に成ればゴミを捨てなくなる、根気良く、この繰り返し【環境美化サイクル】だと想います。



ライオンズアクティビティ

『地球の秘密』地球環境会議

「地球の秘密」の授業を担当された関川小学校 山田泉先生の感想を紹介します。

【環境の授業の感想】

関川小学校:山田 泉

この授業を通して、自分の考えたことを書いてみたいと思います。今、地球は、あらゆる危機に直面していると思います。地球温暖化、森林伐採、絶滅危惧種の生物の増加、大気汚染等、挙げればきりがありません。



そんな状況の中で、『愛華の地球』という本やビデオに触れた時、自分の心の中に愛華さんの地球をよくしていきたいという気持ちがひしひしと伝わってきました。その思いを子どもたちに伝えたいと思いました。

子どもたちは、国語の授業『サクラソウとトラマルハナバチ』や『ものと人とのつき合い方』で環境について『なんとかしたい』という思いは広がってきてはいましたが、この愛華さんの思いを知ることで自分の行動に結びついてきたように思います。子どもたちは、今、広告を集めてメモ帳を作ったり、マイバック運動を勧めたり等自分にできることを見つけてしております。

今後も、この授業を通してあきらめずに続けていくことが、一番大切なことだということを伝えていきたいと思っています。(生徒達の感想文をホームページに紹介しています。)



青少年育成講演会

11月22日に土居高等学校体育館に於いて土居高校生徒を対象に、人権啓発音楽バンド“fb 平成教育委員会”によるコンサート形式による講演を行いました。曲はバンドリーダー井上さん作詞作曲によるもので人権啓発をテーマにした聴く人を魅了する内容で生徒のみならず、教職員、来賓、私たちクラブ員全員が感動を覚えました。



下記は生徒の感想文の一部です。
(多くの感想文はホームページで紹介しています)

- ◆ 歌を聴いたとき、全身が震えるような感動がありました。歌詞の中に込められた、たくさんの思いが伝わってくるようでした。一番心に残っているのは、「少年へ」という歌です。理由は、その歌で人を救うことができたということを知ったからです。思いの込められた歌は、人を救うことができるんだと思いました。今日の講演会は、僕の中でとても大きなものとして残っています。これをいかして今を生きていこうと思いました。(1年男子)
- ◆ 伊予土居ライオンズクラブ主催の平成教育委員会によるコンサート「あした笑顔になあれ」を聴いて、こんな活動のあったことを初めて知りました。自分が伝えたいことを歌にして届けるということは、とてもいいことだと思いました。人権についての大切さを歌と共に学べてよかったし、このような機会があればもう一度やってほしいと思いました。(1年男子)
- ◆ 今日のコンサート「あした笑顔になあれ」を聴いて、命は大切にしないといけないと思いました。自殺で命を絶つ人がいるのは残念なことだと思います。生きてくても生きられない人がたくさんいるのに、命を粗末にするのはいけないと思いました。一つ一つの歌に込められた思いが伝わってきました。悩みなど相談できる友達がいるのは、幸せなことであり、自分の命、みんなの命を大切にしようと思います。(2年女子)

あした笑顔になあれ

作詞・作曲 井上 敏



いいんだよ過ぎたことは
いいんだよ今までの事は
これから一緒に歩こうよ
未来に向かい笑顔をつれて
心をひらいてごらん
大人たちが周りの人達が
きっと君をみつめてる
出会いが君をまっける
君の夢をつくろうよ
春は来るあした笑顔になあれ

いいんだよ昨日までの事は
いいんだよ今日から始めよう
これから一緒に考えよう
明日のために瞳を輝かせ
笑顔を作ってごらん
大人たちが周りの人達が
きっと君をかえてゆく
笑顔が町をかえてゆく
君の優しさ配ろうよ
君の為あした笑顔になあれ



ラブリバー（清掃奉仕）



- 12月2日に土居町ふるさと広場、1月6日に関川海道橋下流、2月10日は関川天王橋上流の清掃作業をラブリバー会員の方、地元の有志の方と合同で行いました。特に天王橋上流の道路周辺には関連業者の方と思われる扇風機、他ではキープされていたと思われる焼酎の空き瓶多数が廃棄されていました、残念なことです。大人がしたことです。廃棄する人は繰り返すと思いますがやはり小さい頃からの家庭での教育と環境教育が必要といつも感じています。冬の寒い中皆さん大変ご苦労様でした。



2R 親善スポーツ大会

11月23日新居浜市民体育館において2R16クラブ参加によりソフトバレーによる親善スポーツ大会が開催されました、当クラブは決勝トーナメントに進出しましたが川の江中央 LC に惜敗し、3位決定戦では川の江 LC に破れ4位という結果になりました。





伊予土居ライオンズクラブ旗争奪レクバレー大会

12月9日土居町『アリーナ土居』において地元10チームと伊予土居 LC の合計11チーム参加でレクバレー大会が開催されました。熱戦の結果1位ピアスチーム、2位新宮チーム、3位きららチームとなりました、ママさんチームは手強いですが、皆様お疲れ様でした。



善行表彰



「ラブリバー、世知れ渡り、受賞する」

この度平成19年度の善行会・秋季表彰を「四国中央市土居ラブリバー推進協議会」と小生が受賞させて頂きました。我が土居ライオンズクラブはラブリバー創設以来・現在まで会の中心で活躍して頂いており、会員皆様の御協力がありましたからこそ、16年間活動が出来たのであります。改めて皆様へ感謝する次第です。そのついでに小生まで、受賞させて頂き、いささか忸怩たる思いが致しております。

またラブリバーの活動を今日この様に見守って頂き、評価をして下さる方々がいらっしゃるという事は今後の我々の活動に大きな励みになるかと考えて居ります。表題に次期のRCの山内 貢さんのこの句使わせて頂きました。



平成20年2月6日(相馬紀夫記)



【奉仕活動の4原則】

山内 貢

(1) 自分から進んで～「自主性、主体性」

奉仕活動は自分自身の考えから始まる活動である、誰かに強制されたり義務として行うものではない、どんなことでも自分自身で「やってみよう」と言う気持ちから奉仕活動が始まります。

(2) 共に学びあい、支えあう、～「社会性、連帯性」

私たちの社会には、自然保護の環境問題、人権、貧困、等など様々な問題が数多く存在します、こうした問題を発見し、改善していく為には一人ひとりが考えたことを多くの仲間と協力しながら行動することが大切です、奉仕活動は共に支えあい、学びあいながら一人ひとりが力を出し合い活動することが必要です。

(3) 見返りを求めない、～「無償性、無給性」

奉仕活動を通じて、様々な人々と何かを成し遂げたり、作り上げた時お金では得られない、出会いや、発見、感動がある、報酬や金銭的なことを目的とするのではなく、精神的な報酬を得る為の活動です。

(4) より良い社会を創る、～「創造性、開拓性、先駆性」

目の前のこと、将来に亘っての課題に対して何が必要なのか、改善のためにはどうすれば良いか、奉仕活動では従来の考え方に捉われることなく、自由な発想やアイデアを大切ににし、方法や仕組みを考え創出して行くことが重要です。

世相を表す漢字

櫛部 邦寛



今年の世相を表す漢字に「偽」が選ばれた。それは、食品の産地や原材料の偽装。不二家、白い恋人、赤福、吉兆などの賞味期限改ざん。年金記録漏れやC型肝炎、政治活動費や防衛庁の諸問題等々挙げればキリがない程次から次と発覚した事が反映されたようだ。武村健一の報道 2001 によると、現在日本の食料自給率が 4 割で 6 割が輸入され、全体の 3 割に当たる食料(3 千万人以上分)が廃棄処分されているらしい。一方開発途上国では 8 億人以上が飢えで苦しみ、1日に 2 万 4000 人が飢えや栄養不良により命を失っている。

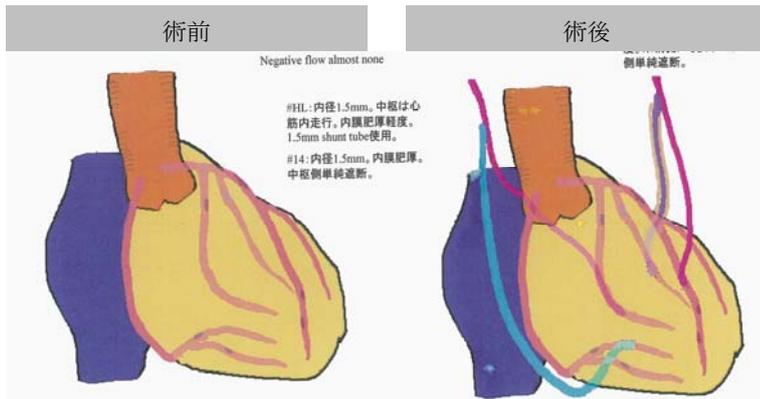
我々子供の頃は腐ったりカビがあっても除けて食べ、賞味期限は自己判断だったように思う。偽装や改ざんは決して許され事ではないが、消費者も廃棄処分された分までコストに含まれている事も理解し、賞味期限や消費期限を厳しく追及するのもどうかと思う。

今年の世相を表す漢字は「偽」だが、私個人としては激動、激変の「激」だった。と言うのも、4月から待ち望んでいた4女が会社を手伝ってくれるようになり、11月に36歳の長女がやっと結婚してくれ、私は今回(11月末)冠動脈バイパス手術で入院した。会社では、十数年間思い描いて来た見積とCADを繋ぐソフトが6月に完成し作業が大幅に短縮された。以前なら2人で2日～3日かかっていた見積が僅か数分で出来るようになり、業界でも同類のソフトは未だに存在せず画期的な開発だと自負している。そして、10月には念願の大阪事務所を開設し本社と社内ラン(情報通信ネットワーク)で繋がりが、図面や見積書等が一元管理できるようになった。

以上の事から、今年は公私共に激動、激変の1年だったように思う。

バイパス手術には、左右の内胸動脈と左手の動脈、右足の静脈の4ヶ所の血管を使用し、心臓も止めず直径1.5mm程の血管をつなぎ併せ、しかも出血が20程あったようだがこれを洗浄し再利用した。(次ページへ続く)

偽



人口心臓を使ったり、輸血などすると合併症のリスクもあり回復に時間もかかる。最近はこの方法が主流で8時間に余る開胸（肋骨切断）手術にも拘わらず、術後僅か12日で退院し翌々日から出社した次第です。

これまで「何事もやればできる」をモットーに只我武者羅に突っ走って来たのが、病氣の一因のようだった。自分が好んでやっていたからストレスと感じなかったが、今回の手術を期に考え方も変り、残り僅かとな

右図、赤色の左右内胸動脈から分岐された青色が足の静脈、紫が手の動脈

った人生少しゆとりを持って過ごすように努め、最後の行き場所だけはできる限りゆっくりと行きたいと思うようになった。

おごるな星野ジャパン

相馬 紀夫



平成19年12月3日に「アジア野球選手権2007」が北京五輪アジア予選を兼ねて台湾国の台中洲際野球場でおこなわれた。星野監督率いる我が日本が台湾を10—2で下し来年の北京五輪の出場を決めた。偶々小生の嫌いなTV朝日系列で放映していた。さて、本題に入るとして、最後の場面を見て、皆さんはどう感じたでしょうか。

上原が最後の打者をダブルプレーで仕留めた瞬間、日本のベンチから全員飛び出して、喜びを表した。これは日本の球場では優勝の瞬間にしばしば見られる風景である。しかし、注意して見ていると、同時に台湾の選手もベンチから出て来ていた。台中洲際

野球場に二つの選手の輪ができた。彼らは負けても飛び出てきたのである。全てのスポーツで見られる戦った後にお互いの健闘を称える為に、エールの交換に出て来たのである。恥ずかしい事に星野ジャパンの首脳陣田淵幸一・山本浩二もその事に気づかずに只自分たちのチームの勝利のみに走ってしまった。台湾チームの選手は何を感じたのであろうか。台湾には日本精神という事があって、日本人は尊敬のまなざしで、見られている。その精神に則って負けてもベンチから出て来たのではないか。最近スポーツ全てで最近批判が絶えない。朝青龍の問題、ボクシングの亀田、野球もその中に入ってしまったのか。星野ジャパンよく戦ってくれて有り難うと言いたい。しかし、今一度スポーツは勝てば良いのではない。終わった後の爽快さが大切である。

TVを見てこんな気持ちになり、後味が悪かった。これから北京五輪は人権問題・チベット・ウイグル・アフリカのハルツーム問題など中共が主催するに値しない国と思うが、仮に北京五輪が開催された際には、星野ジャパンよ！どうぞ日本人に恥を欠かせないように立派に振る舞って欲しい。

追伸：19年12月17日の産経新聞に日本の野球の弟分と云う小さなコラムにこの様な記事が出ていた。星野監督の日本と台湾戦は勝敗が、早々に決したが、それでも数千人の台湾人はゲームを最後まで見届け、大量得点を取られながらも、一部の人は「ニッポン、ニッポン」と声援を送り、閉幕式では「おめでとう」の声までかけ、日本人サポーターを感動させた台湾在住の長谷川周人レポーターは報告していた。台湾人の態度に我が日本人のお株を奪われてしまった。“しっかりせよ日本 ”



PR 情報委員長 日野 寿光

“編集後記”

昨年12月29日から 30 日にかけて山陰から四国地方に降雪があり各地のスキー場も安堵したと思います。2月19日の新聞の日本各地のスキー場の積雪量は例年に比べ3～4割ほど多く天然雪での滑走が満喫できますが、岐阜県ではスキー客の雪崩による死亡事故や豪雪地帯では屋根の雪おろしが大変であり、多いからと言ってもいいとは言いきれないところです。表紙の画像は暖かな日に撮影したので冬らしくないのですが、土居町のゆったりした情景が出ていると思います。



平成20年1月9日
土居町文化会館 第一例会にて。

伊予土居ライオンズクラブ

愛媛県四国中央市土居町入野 965-1
土居町商工会 2階
TEL:0896-74-6235
FAX:0896-74-1136
E-Mail:doi@lionsclub336a.org
URL:<http://doi.lionsclub336a.org/>



2008年2月号 No.135
発行日:平成20年2月20日
発行所:伊予土居ライオンズクラブ事務局
発行人:ライオンズ情報委員 日野寿光